

陳情第124号	受理年月日	平成27年12月7日
付託委員会	総務財政委員会	
陳情者	八幡東区尾倉三丁目3-22 八幡市民会館と八幡図書館の存続問題を考える会 代表 三崎 英二	
件名	文化区画としての八幡市民会館と八幡図書館の保全について	
要旨	<p>当会は、八幡市民会館と八幡図書館がかけがえのないものであって、決して廃止・解体の対象としてはならないと考え、発足以来1年6カ月を超えてもなお存続を求め続けている。</p> <p>旧八幡市は終戦間際に大空襲を受け、中心市街地の約6割が焼け野原となり、約2,800名の死傷者を出した。特に市民会館前の小伊藤山公園は、防空ごうに避難していた約300人全員が亡くなった場所である。その跡地を見守るように建てられている八幡市民会館と八幡図書館は、戦争の惨禍への鎮魂と再起の決意が込められた魂のよりどころ・シンボルである。単なる箱物の公共施設ではない。復興に携わった人々が、遠大な哲学をもって後世のために残してくれた文化区画である。</p> <p>戦災復興都市計画として皿倉山を背景に、八幡駅前通りに50メートル道路、平和祈念像、慰霊塔、公民館、市民会館、図書館が整備された。コンセプトは防災・文化・平和である。しかも八幡市民会館と八幡図書館は、北九州市出身の文化勲章受章者・村野藤吾氏の作品であり、貴重な文化遺産・戦後復興期を示す建築物である。八幡駅からの景観が一つのコミュニティー、町そのものを形成している歴史に固有な文化財である。</p> <p>国際学術組織ドコモモが八幡市民会館をモダンムーブメントの建築184選に選定し、本市に建築物及び周辺環境の保全に格段の配慮を求めている。また、戸畑図書館がことし7月に受賞したBCS賞を第1回に受賞している。</p> <p>八幡図書館は、豊かな木々を挟んで並び立つ市民会館とともに、旧八</p>	

(続 く)

幡市における文化センターのシンボルとして計画されたものである。壁面の特徴ある幾何学模様はれんがタイルと焼きれんがの張り合わせで、四角い建物に縦横にデザインされ変化を持たせている。特にれんがは、八幡製鉄所の鋳さいを使った鋳さいれんがと耐火れんがの組み合わせになっている。

北九州市は東京都と並ぶ建築都市である。近現代の建築史を語る建築物がすべてそろっている。しかし廃止・解体するとその歴史が途絶えて空白が生じる。

については、八幡市民会館と八幡図書館を箱物として扱うことは、文化区画喪失のリスクを生じ、市の財産に損失を与える誤りであることを確認し、文化区画の保全を図っていただきたい。